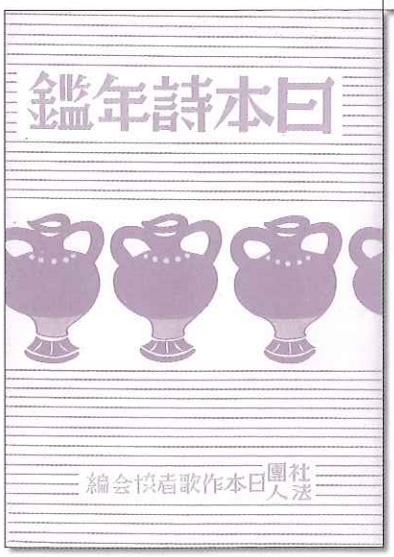
現代日本詩集

1927年～1944年

編集復刻版◉全5巻＋別冊1

総1、100名、総作品数3、800、
昭和戦前・戦中期に刊行された
「現代詩アンソロジー」の集大成！
今日入手困難な「年鑑詩集」22点を収録。
現代詩研究の基本文献として復刻刊行！



A4判・上製・四面付け・
総1、770ページ
解説◉澤正宏（福島大学教授）
本体揃価格◉125、000円＋税

●第1回配本（第1・2巻）
2009年12月
本体50、000円＋税
●第2回配本（第3～5巻＋別冊）
2010年5月
本体75、000円＋税

不二出版

刊行の辞

昭和戦前・戦中期には、ほぼ毎年その年に活躍した詩人及びその詩を紹介する「年鑑詩集」が刊行された。各冊三〇名から多いもので二二〇名におよぶ作品が紹介されており、「それ等は如実に現代詩壇の縮図であり、凡ゆる角度と視点より眺め亘せる一大鳥瞰詩集の大成」（『現代日本詩集一九三三年版』）であった。さらに、ここに選ばれた詩篇の中には、詩人の個人詩集や全集に掲載されていないものもあり、貴重である。

また、略歴や住所録がほとんどの詩集に付してあることも特色で、詩人の名簿的役割を果たしているとともに、当時の詩人たちの年譜に記載されていない動向を知る上でも重要である。一九三二年以降は、アジア・太平洋戦争の中で、詩人を取り巻く環境も軍国主義に染まっていき、戦争を賛美する詩が増えていくが、あらためて当時の詩人と社会状況との関わり合いも読み取ることができる。

なお、本資料集に収録している原典をすべて所蔵する研究機関は皆無である。これらの貴重資料を、現代詩歌研究において必備の基礎資料として復刻する。

不二出版

主要執筆者一覧

赤松月船
生田春月
乾直恵
岩本修蔵
大江満雄
岡本潤
恩地孝四郎
金子光晴
北川冬彦
国井淳一
西條八十
佐藤春夫
白鳥省吾
高木斐瑳雄
竹内勝太郎
田中克己
奈加敬三
西川満
萩原恭次郎
菱山修三
藤原定
松村又一
村野四郎
山崎泰雄
横山青娥

浅井十三郎
生田花世
井上多喜三郎
上野壮夫
大島博光
岡本弥太
遠地輝武
河井酔茗
北園克衛
蔵原伸二郎
阪本越郎
佐野嶽夫
神保光太郎
高橋掬太郎
竹内てるよ
田中喜四郎
中西悟堂
西谷勢之介
萩原朔太郎
平木二六
堀口大学
丸山薫
室生犀星
山田牙城
吉川則比古

安部宙之助
石川善助
井上康文
植村諦
大手拓次
小熊秀雄
片山敏彦
川路柳虹
北原白秋
黄瀛
笹沢美明
渋谷栄一
杉浦伊作
高橋新吉
竹中郁
田中冬二
中野重治
野口雨情
服部嘉香
深尾須磨子
前田鉄之助
三木露風
百田宗治
山中散生
吉田一穂

天野隆一
一瀬直行
伊波南哲
潮田武雄
大村主計
尾崎喜八
勝承夫
神原泰
衣巻省三
郡山弘史
佐藤一英
島田芳文
杉江重英
高村光太郎
竹中久七
田中令三
中野秀人
野口米次郎
花岡謙二
福田正夫
真壁仁
宮崎丈二
森三千代
山之口獏
吉野信夫

安西冬衛
伊東静雄
伊良子清白
内野健児
大谷忠一郎
長田恒雄
加藤介春
金子みすゞ
菊岡久利
木山捷平
後藤郁子
佐藤清
下田惟直
千家元麿
瀧口修造
竹村俊郎
月原橙一郎
中原中也
野長瀬正夫
英美子
福田夕咲
正富汪洋
宮崎孝政
森山啓
山本和夫
米澤順子

安藤一郎
伊藤整
岩佐東一郎
浦瀬白雨
岡崎清一郎
小野十三郎
金子みすゞ
喜志邦三
草野心平
近藤東
佐藤惣之助
城左門
高木秀吉
瀧口武士
多田不二
中勘助
中村漁波林
能村潔
春山行夫
福原清
松田解子
宮沢賢治
藪田義雄
横瀬夜南

草野心平

蟇の蛙（ひきのかへる）

詩集『母岩』其他数篇あり　現住所　中野区上高田一ノ一一六

あたしはさいぜんから月を見てをります。もうどの位みてゐたのか。すこし位蹠がちがつたやうにも思はれますがよくは分りません。あたしのわきですからんぼも眠つてをります。こうしたときにはきつときらきらする夢をみますのであたしはまばたきもしないで草の上にをります。ひるまとかん違ひしてゐるのでせうか。ああまた水すましがきました。月のおもてにローマ字を描いてをります。さうしてまたくらい水の方へ消えてゆきました。

あたしは想ひ出します。くらびすとかいふカソリックの坊さんが話されたことでしたが。大昔。月はひどい疵瘡を患つたさうですが。御自分でそれを治されたのださうで御座います。けれどもそれからは冷たくてこぼこになり儘かに天を支配する精神であんなに青く光つてゐるのだといふことです。

すかんぽさん。あたしは口に出しては言ひませんが。またあなたも道具道屋にかかつた三番叟の鈴のやうに靜かですが。夢みることはいけないでせうか。眠つてみる夢ではなく眼をあいてみる夢です。あたしたちの幸福を夢みることはいけないでせうか。あたしが耳で雨の音などをきくことが出來ました頃。お母さんはあたしたちの先祖のお話をしてくだすつたことがあります。それはまだこの世に雪のないずつとずつと遠くのことなんですけれど。あたしはそのお話を半分ほどもきかないうちにもう泪がでてなりませんでした。でも御覧。こんなにあたしたちは立派なのです。樂しく唄ひ。自然は泪も出しきれない程美しく。ねえほら。みんなは泳いだり浮んだり。さ。ね。お前も唄ふんだよ。るつていつて御覧。さうさう。もう少しつゞけてゐるるツていつて御覧。そんな風にしてあたしは唄をおぼえました。

すかんぽさん。すゐぶんおしやべりをしました。御免なさい。でもあたしの憶えた最初の唄をきいて下さるでせうか。

ひるまの風は。
どこいつた。
みんな木の中。
ねてゐます。

うごく光りは。
ほたるさん。
動かないのは。
おほしさん。

あたしはたいへん好きでしたが。ガビラといふあたしのきようだいの男のこはつてまらないといつていつも火事のやうな唄をうたつてゐました。ぼうれ見ろやい星が流れてらあ。ある夜ガビラに言はれるままに空をみますと。空はただ

まつ黒でした。かつゞもん……とあたしが言ひかけましたとき。あたしはるびやーんと叫んでしまひました。その時のおどろきはいまもなほ憶えてをります。それから分つたことですが。星がたくさん降る夜はいつでも空氣がだんだんになつてゐるのでした。ガビラがみんなを說きまわり動かないのは一を訂正しまして。

天からすべる。
お星さん。

になほすことになりましたのもその時からで御座いました。そのガビラもいまはもう好きな稻妻も見ることはありません。去年の七月のまぶしい雨上りヤマカガシに喰はれて死んでしまひました。

すかんぽさん。ずゐぶんしづかな夜ですね。あなたはなにを考へてゐられるのでせう。あなたのいい匂ひの中で遥い記憶の音樂がたのしいさざなみのやうにあたしのどこかでしてをります。生きてゐますことはこんなに切なくうれしいものですのに。あたしの丈夫なきようだいたちのいくにんかはもうこの世界にはをりません。みんな無殘な死に方でした。でもあたしのお母さんは喧嘩や自殺で死ぬのではなく殺されて死ぬのは立派のことだと敎へてくださいました。

水すましはもう眠つてしまつたのかしら。あなたのきれいなまんまるのなかに浮んだまま朝のばら色の天をまちたいのですけれど。お月さま。あたしはここにをります。大きな戀愛のやうな氣持ちで御座います。

倉橋彌一

新しき港

明治三十九年七月二日東京に生る。現住所　東京市澁谷區代々木初台四七六　詩集「訪問」詩作同人、

新しい港よ
おまへは飛沫に濡れた文明の椅子
航海を終へた青船がゆつたりと休む
船員が歌をうたひながら働き
起重機が積荷を引上げてゐる
街の生活に疲れた人々が
岸壁に集つて船休を眺めてゐる
船腹の黒板にチョークが走る
コノ船ニ入ルベカラズ
新しい港は今、太陽の直射を浴びてゐる

夜

沖に立つ波は神の掌
明るい星は
眠つてゐる
海の上を
ゆつくりと
ゆつくりと
撫でてゆく

『全日本詩集　昭和十六・十七年度』より

『現代日本年刊詩集　昭和十六年版』「現代日本年刊詩集名鑑」より

『詩人年鑑　一九二八年版』「詩人消息」より

『現代日本詩集　1927年～1944年』執筆者索引

【あ】

相川俊孝
　断章　②-317
　心境　⑦-26
相沢　等
　狐のやうなもの　①-14
　夕日　⑧-40
会田　穀（籏劉一郎）〔北町一郎〕
　部落・八月　③-7
　下水　⑥-14
　橋梁　⑦-210
　文学　⑦-211
　説話　⑧-235
　小妹　⑧-236
相原太一
　前進　⑥-20
　沈みゆく街　⑥-21
青旗青太郎〔光永鉄夫〕
　炎天　①-28
　成功　①-29
　夜ひらく　①-30
　炎天　②-424
　雲雀　④-7
青木茂若
　暮冬の炉辺　①-27
青芝港二〔田沢修一〕
　感激の日　㉒-43
青山霞村
　春　⑧-27
　星　⑧-28
　新秋　⑧-28
　恋三題　⑧-29
　石地蔵を偲む長歌　⑧-29
　百貨店　⑧-30
青山孝之
　地上の光　⑤-8
赤石　茂
　杭打のうた　⑩-10
赤川草夫
　雨雪　⑤-2
　父　⑤-3
赤木公平
　正月ちかく　⑩-14
明石紫陽
　如月抄　⑫-64
暁竜之助
　現実への宣言　⑧-31
赤松月船
　八月二十三日　①-2
　ひらけゆく郊外　①-3
　秋　①-4
　われわれ人間は　①-5
　秋　①-6
　秋　①-6
　蓍　③-5
　花粉の日　④-3
　あと　④-4
　詩壇と超現実主義<詩論>　④-341
赤松芳影（大鵬芳影）
　火口　⑫-163
　鉄塔　⑭-32

『執筆者索引』では、収録書籍を資料番号で示した。
例えば「相川俊孝　断章　②-317」は、
『詩人年鑑　一九二八年版』317ページを示す。
作品名も一目でわかるように表示した。

日本の詩語の骨格が見える

佐々木幹郎
（詩人）

昭和初年代から十年代の日本の詩のアンソロジーを開くとき、つねにふつふつと沸いてくる喜びがある。日本の詩語がこの十数年の間に確立されていったということを、まざまざと知ることができるからである。

明治時代にヨーロッパの詩を移入して以降、フランスやドイツの詩からの影響が強かった日本の詩人たちが、昭和初年頃からイギリス詩の影響を受け始める。翻訳文化が花開いたのは大正末期から昭和初年代であった。シベリア鉄道の開通によって、貧しい若い人々が手軽に鉄道便で洋書を手に入れることができるようになった時代。新しい言葉こそが価値だ、という信仰は日本近代を覆っていた。

それに対して、歌舞伎や浄瑠璃や伝統音楽や俗曲が、ノイズのように詩人たちの生活の周囲に根を下ろしていた。昭和初年代のラジオの音楽番組では三味線と琵琶の演奏が最も人気が高かった。西洋音楽に日本人の耳が慣れるには、まだまだ時間が必要だった。

日本の詩の言葉は、そういうノイズのなかから生れ、骨格を作っていった。それはその時代の共同体の物語と響きあい、共鳴、共振し、日本独自の詩のリズムを、言葉と声と音楽を、創出していったのである。

『編集復刻版　現代日本詩集　一九二七年～一九四四年』を待望するのは、そんな詩の歴史を、誰にでも一望のもとにすることができるからである。

推薦します

詩人の動向の群像指標

阿毛久芳
（都留文科大学教授）

詩との出会いは詩人との出会いでもあり、そこに言葉をとおして言葉を超える深い心のふれあいがある。そこに詩を読む醍醐味がある。だがその詩人がどのような場で詩を表出していたのかをとらえようとするとき、詩人の枠を超えた視野が必要となるだろう。

このたびの『編集復刻版　現代日本詩集　一九二七年～一九四四年』は、大正の詩壇の公的指標としてあった詩話会の機関誌『日本詩人』（一九二一年～一九二六年）と年刊詩集『日本詩集』（一九二九年～一九三六年）の終刊後の詩人の動向をとらえる指標となるもので、詩人の枠を超えた視野を与えてくれることからも意義深い。

年刊詩集のアンソロジーを読むおもしろさは、詩集や詩の雑誌を読むのとは異なっている。その年度に掲載された詩人と詩、そして詩にかかわる評論、エッセイ、その他の情報が、編集者の意図を反映する形をとりながら、その意図を超えた意味を示すことになっているところに気づく点である。現在の視野からみると、埋もれてしまった詩人たちの詩にふれることができ、また現在でも読み継がれ、全集が刊行されている詩人の詩もそれらの詩人と同一の地平から見とおされることもおもしろい。刊行された時代の詩人と詩の息吹を吸い込むことができるのである。

時代は戦前、戦中を含んでいる。『詩法』や『新領土』などのモダニズム詩運動を推進していた詩人、『四季』『コギト』『日本浪曼派』などにかかわっていた詩人、『歴程』周辺の詩人など、色分けはできるだろうが、色分けを超えた詩人たちの姿勢、群像の眺めが見えてくるか、そのような期待を誘ってくれる。

現代日本詩集

1927年～1944年

編集復刻版・全5巻＋別冊1・概要

- 体裁――A4判・上製・四面付け
  総1,770ページ（原本の総ページ7,079ページ）
- 別冊――解説（澤正宏）・執筆者索引（作品タイトル付）
  別冊のみ分売可＝本体価格2,000円＋税
  ISBN978-4-8350-5954-9
- 定価――本体揃価格125,000円＋税
- 推薦――佐々木幹郎（詩人）
  阿毛久芳（都留文科大学教授）
- 配本および収録資料一覧

配本	収録巻	書名	著・編者	発行所	刊行年月	原本頁	収録人数
第1回配本	第1巻	一九二七年詩集	抒情詩社編	抒情詩社	1927年7月	494	170
		詩人年鑑 一九二八年版	詩人協会編	アルス	1928年6月	514	220
		全日本詩集	東亜学芸協会編	文書堂	1929年11月	323	133
	第2巻	一九三〇年詩集	詩人協会編	アルス	1930年6月	376	97
		一九三一年詩集	吉野信夫編	アトリエ社	1931年4月	237	118
		現代日本詩集 一九三二年版	詩人協会編	詩人時代社	1932年1月	227	107
		現代日本詩集 一九三三年版	吉野信夫編	詩人時代社	1933年4月	406	144
		現代日本詩集 一九三四年版	吉野信夫編	現代書房	1934年6月	460	186
		一九三四年詩集	内野郁子編	前奏社	1934年10月	248	66
	第3巻	一九三五年詩集	内野郁子編	前奏社	1936年1月	299	73
		全日本詩集 一九三七年度	前田鉄之助編	詩洋社	1938年2月	300	129
		現代日本詩集 一九三八年版	河西新太郎編	詩壇新聞社	1937年9月	177	109
		全日本詩集 昭和十四年度	前田鉄之助編	詩洋社	1939年8月	328	131
		全日本詩集 昭和十五年度	前田鉄之助編	詩洋社	1940年11月	350	147
第2回配本	第4巻	現代日本年刊詩集 昭和十六年版	山田岩三郎・村上成実編	山雅房	1941年7月	331	154
		現代詩 昭和十六年春季版	日本詩人協会編	河出書房	1941年5月	259	32
		現代詩 昭和十六年秋季版	日本詩人協会編	河出書房	1941年11月	273	31
		全日本詩集 昭和十六・十七年度	前田鉄之助編	詩洋社	1942年6月	332	146
		現代詩 昭和十七年春季版	日本詩人協会編	河出書房	1942年6月	340	38
		現代詩 昭和十七年秋季版	現代詩会編	河出書房	1942年12月	290	30
	第5巻	現代詩 昭和十八年秋季版	現代詩会編	輝文館	1944年2月	311	33
		昭和十九年度 日本詩年鑑	日本作歌者協会編	新興出版	1944年3月	204	56
	別冊	解説・執筆者索引（作品タイトル付）					

2009年12月刊
本体50,000円＋税
ISBN978-4-8350-5951-8

2010年5月刊
本体75,000円＋税
ISBN978-4-8350-5955-6

●表示価格はすべて税別。

不二出版
〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替00160-2-94084